

2018年1月1日付更新に当たっている臨床検査専門医へ

日本臨床検査医学会理事長 矢富 裕
副理事長（新専門医制度担当） 山田俊幸

1. はじめに

臨床検査領域は、2018年1月1日付更新から新制度による専門医（機構専門医）としての更新を導入します。これにあたり、当該の方に向け、更新に必要な単位について説明します。添付の必要書類の提出期限は11月末日ですが、それまでの準備の参考にしてください。

機構専門医での更新を導入する一方で、現制度（学会専門医）での更新も少なくとも2020年度までは継続します。従って、学会専門医を更新する方は、現行規定が適用されますので、ここでは詳しくは説明しません。

2. 機構専門医として更新が必要になるのは？

現専門医のすべてに機構専門医での更新を勧めますが、特に新制度における指導医として研修プログラムに掲載された方は機構専門医であることが求められますので機構専門医としての更新が望まれます。

3. 今回、学会専門医として更新したらどうなるか？

次回の更新時（5年後の2022年度）に機構専門医として更新することが可能です。ただし、今回の更新後の5年間で、必要単位50単位を揃えるためには、毎年平均10単位ずつ取得していくことが望まれます（短期間で取得するのは困難）ので、この案内を参考に、遺漏なきようご準備ください。

今回、学会専門医として更新され、次回機構専門医としての更新が困難または年齢などの理由で必要性の低い方は、名称を変えた現専門医に相当する学会認定資格（認定医等）を残すことが検討されていますので、そちらを選択することも可能です。ただし、機構の新制度が確立されますと、学会認定資格では「臨床検査専門医」を名乗ることはできなくなることに留意ください。

4. 今回、機構専門医更新に必要な単位数

学会専門医更新に必要な40単位と、機構専門医更新に必要な10単位の計50単位が必要になります。現制度の「リスクマネジメント講習会」と新制度の「必修講習・医療安全」は、どちらかが含まれていれば可とします。なお、学術業績や講習会の単位は、「学会」と「機構」2つの制度で重複カウントできませんので注意してください。

5. 学会専門医の40単位

前回更新からの5年間で獲得した単位を使用できます（うち20単位は日本臨床検査医学会の企画したものへの参加により取得したもの）。今回が初めての更新の方は、検査報告書が16編必要で、8単位となります。詳細は、学会HP

トップページ上段の「認定制度」
(<http://www.jslm.org/recognition/index.html>) ⇨ 「臨床検査専門医」⇨ 「臨床検査専門医制度規定・内規」の「認定更新制度規定」を参照してください。

6. 機構専門医の10単位

学会 HP トップページ上段にある「認定制度」(上記同)⇨「新臨床検査専門医制度」(<http://www.jslm.org/newsys/index.html>)⇨「新しい更新について」の「臨床検査専門医更新基準」を参照してください。直近1年(2016年4月以降)に獲得した単位を申請することになります。ただし、専門医共通講習のうち必修講習については直近1年ではなく、この5年間に受けたもので受講証明があれば使用できます。

単位とは直接関係しませんが、ここ1年の活動実態を様式1-2で申告してください。現時点ではこの記載の不備だけで失格とすることは想定しておりません。

診療実績は原則1単位が必要になります。報告書数にして5編です。なお、過去3回の更新者は診療実績が免除され、講習など別の種目で診療実績の代替ができることになります。

講習会受講単位は最大9単位必要になります。そのうち必修講習は最低1単位必要です。必修講習は直近5年以内に受講したものでも出席証明があれば認められます。本年度に行われる年次学術集会や、地方会、関連学会において、いくつか講習会が設定されており、学会HPで案内されますので、受講を心がけてください。

その他の学術活動で、1~2単位充足することを検討してください。学術集会参加は1日1単位、学会発表は示されているような単位設定になっています。

参考までに、10単位の内訳の一例を示します。

項目	下限	上限	例
診療実績	1	2	1(報告書5篇)
講習会受講	1(必修講習)	9	1(倫理講習受講)、4(昨年の学術集会での講習受講)、2(地方会での講習会受講)
その他の活動		2	2(昨年の学術集会学会出席2日)

7. 更新に係る費用について

現制度(学会専門医)で更新される方はこれまでと同様に学会に1万円を納めてください。機構専門医として更新される方は、審査料として学会に1万円、認定料として機構に1万円の計2万円の負担をお願いします。納入方法はおって周知します。

不明な点は学会事務局までお尋ねください。

(様式1-1)

日本専門医機構認定 臨床検査専門医 資格更新申請書

20 年 月 日

一般社団法人 日本専門医機構 御中

フリガナ

氏 名

生年月日 _____ 年 月 日

勤務先名

勤務先住所 〒 _____ - _____ TEL: _____

自宅住所 〒 _____ - _____ TEL: _____

学 歴 _____ 年 月 _____ 大学卒業

医籍登録番号 第 _____ 号

医籍登録年月日 _____ 年 月 日

専門医登録番号 第 _____ 号 初回認定日 _____ 年 月 日

現在の認定期間 _____ 年 月 日 ~ _____ 年 月 日

学位 (任意) あり なし

メールアドレス (任意) アドレス1

アドレス2

勤務実態の自己申告 (必須)

勤務実態の自己申告

直近1年間の勤務実態について記載してください。はい、いいえの欄は一方に○を付してください。

勤務形態について

- a. 病院で臨床検査部門の常勤医師として勤務している (はい、いいえ)
勤務施設名 () 診療科・部署の名称 ()
- b. 診療所で臨床検査部門の常勤医師として勤務している (はい、いいえ)
勤務施設名 ()
- c. 病院または診療所で臨床検査部門の非常勤医師として勤務している
(はい、いいえ)
複数ある場合はすべて記載
() 時間/週 勤務施設名 ()
() 時間/週 勤務施設名 ()
() 時間/週 勤務施設名 ()
- d. 検診機関、臨床検査関連企業等で臨床検査に携わる医師として勤務している
(はい、いいえ)
() 時間/週 勤務先 ()
業務内容 ()
() 時間/週 勤務先 ()
業務内容 ()
- e. その他 : a~dに該当しない場合
() 時間/週 勤務先 ()
臨床検査に関連した業務の内容
()

専門医としての活動概要

平均的な1週間あたりの診療関与時間

- 診療活動・・・ 小計 () 時間/週
- ・ コンサルテーション対応 () 時間/週
 - ・ 検査結果コメントの作成 () 時間/週
 - ・ 臨床検査のオーダー、実施 () 時間/週
 - ・ 精度管理業務 () 時間/週
 - ・ 外来・病棟における患者への検査説明等 () 時間/週
 - ・ その他 (内容:) () 時間/週
- 診療管理と教育活動・・・ 小計 () 時間/週
- ・ カンファレンス () 時間/週
 - ・ 診療に関わる委員会活動 () 時間/週
(臨床検査部運営委員会・精度管理委員会・感染対策委員会・輸血療法委員会等)
 - ・ 学生・研修医・専攻医指導 () 時間/週
 - ・ メディカルスタッフ指導 () 時間/週
 - ・ 患者・家族等に対する教育啓発活動 () 時間/週
- その他の臨床的活動・・・ 小計 () 時間/週
- ・ 検診・健康相談対応 () 時間/週
 - ・ 臨床に関わる書類作成 () 時間/週
(外部精度管理報告書、臨床検査関連会議の議事録、等)
 - ・ 行政機関等の依頼に基づく調査と報告、提出書類の作成 () 時間/週
 - ・ その他 (内容:) () 時間/週
- 専門医として相応しい病院外での医療活動・・・ 小計 () 時間/週
- ・ 外部検査機関での活動 (内容:) () 時間/週
 - ・ 外部医療機関の指導 (内容:) () 時間/週
 - ・ その他 (内容:) () 時間/週
(内容:) () 時間/週
(内容:) () 時間/週

(様式 1 - 3)

単位集計表

項目		取得単位 (2016年4月～)	更新申請に 必要な単位 (1年間相当分)
i) 診療実績の証明 (別表1と実際の記録を提出)	A 必須報告書数	単位	(1単位)
	B その他	単位	(0～1単位)
	A+B	① 単位	1単位以上必須 最大2単位
ii) 専門医共通講習 (受講証明を提出)	a. 必修講習	医療安全： 単位	計1単位以上必須
		感染対策： 単位	
		医療倫理： 単位	
	b. その他	単位	
	a+b	② 単位	1単位以上必須 最大2単位
iii) 臨床検査領域講習 (別表2と受講証明を提出)	③ 単位	4単位以上	
iv) 学術業績・診療以外の活動実績 (別表3と関連書類を提出)	④ 単位	0～2単位	
総合計 (①+②*+③+④) *②には必修講習各1単位以上が必須です		単位	10単位

事務局記入欄

日本臨床検査医学会 会員番号

受付年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

(別表1)

診療実績

項目名 (3種類以上取得)	必須 25 件の件数と 提出書類番号	追加件数と 提出書類番号
①検査報告書		
尿沈渣	記載例 5件 (1-1、1-2などと 記載し、提出書類に同じ番号 をつけてください)	
穿刺液・体腔液の細胞検査		
末梢血液像		
骨髄像		
フローサイトメトリー		
リンパ節スタンプ標本		
蛋白分画		
免疫電気泳動		
免疫固定法		
アイソザイム		
リポ蛋白電気泳動		
脂質分画		
アミノ酸分画		
グラム染色・抗酸菌染色所見		
細菌培養同定		
耐性菌検出報告・指導		
薬剤感受性試験		
抗酸菌検出		
血液型判定 (変異型など)		
不規則抗体判定・指導		
病原体核酸検査		
造血器等腫瘍遺伝子検査		
薬物代謝関連遺伝子検査		
超音波検査		
循環器機能検査		
呼吸機能検査		
血管機能検査		
神経筋検査		
その他 (特定してください。 領域専門医委員会で審査します。)		

②臨床検査室管理業務		
内部精度管理		
外部精度管理		
インシデント・アクシデント対応		
臨床検査技師への指導・講義		
その他（特定してください。 領域専門医委員会で審査します。）		
③コンサルテーション対応		
検査外来での説明		
施設内・外からのコンサルテーションへの 対応		
健診・人間ドックでのコメント、説明		
遺伝子検査に関する患者・家族/主治医へ の説明		
その他（特定してください。 領域専門医委員会で審査します。）		
合計	件、 単位	件数と単位数

注) 関連書類は個人情報に留意してください。①は、診療報告書と同一のもののコピーとして
ください。紙媒体報告書の場合は日付、報告者のサイン（または印）のあるものにしてくだ
さい。デジタル報告書の場合は、画面のハードコピーでもいいですが、日付、報告者名がわかる
ものとしてください。②、③はその記録の原本が施設に保管されているものとします。

(別表 2)

共通講習受講単位表

講習会主催団体	2016年		2017年							
	必修	その他	必修	その他						
日本臨床検査医学会										
日本臨床検査専門医会										
所属施設 (特定ください)										
他団体 (特定ください)										
計										
総計	必修 その他 合計									

年次ごとのそれぞれの単位数の合計を記入ください。受講証明は年次順にまとめて提出してください。

(別表 3)

臨床検査領域講習受講単位表

講習会主催団体	2016年	2017年			
日本臨床検査医学会					
日本臨床検査専門医会					
関連学会					
e-learning などの受講					
計					
総計					

年次ごとのそれぞれの単位数の合計を記載ください。受講証明は年次順にまとめて提出してください。

(別表 4)

学術業績・診療以外の活動実績

活動内容	認定単位	取得単位
学術集会への参加*1 (最大 3 単位まで)	1/日	
学術集会での発表*1	1/回	
同上共同演者 (第 2 演者 1 名に限ります)	1/回	
査読制度のある学術誌における論文の筆頭著者	2/篇	
同上共同筆者	1/篇	
臨床検査に関する専門書籍の刊行者*2	2/篇 (単著) 1/篇 (共著)	
臨床検査に関する総説の筆頭著者*2	1/篇	
学術集会の座長*1	1/回	
学術雑誌の査読者*2	1/回	
専門医試験委員会より委嘱され認定試験問題を作成した場合 (年 1 回に限ります)	1/回	
専門医認定試験における試験委員・監督などの業務に携わった場合 (年 1 回に限ります)	1/回	
所属施設の臨床検査関連会議における指導的業務*3		
院内感染対策委員会	0.1/件	
輸血療法委員会	0.1/件	
栄養評価委員会	0.1/件	
医療安全委員会	0.1/件	
地域医療への貢献		
外部施設における臨床検査部門の査察・指導	1/回	
外部精度管理事業の指導	1/回	
日本臨床検査専門医会が主催する臨床検査の啓発活動	1/回	
専攻医・学生・メディカルスタッフ等への教育・指導	1/回	
	計	

注) 出席、参加の証明となるものを提出してください。本表と対応がわかるような提出をお願いします (表中順など)。

*1: 臨床検査医学会 (支部含む)、WASPaLM、ASCPaLM、AACC、IFCC、ASCP などの国際学会、検査血液学会、臨床化学会、臨床微生物学会、超音波医学会、遺伝子診療学会、生物試料分析学会などが主催する学術集会、その他は申請により委員会が認定します。参加とは、終始学会会場にあって積極的に討論に参加することを意味します。

*2: 雑誌は領域専門医委員会が認定します。商業誌は対象になりません。

*3: 提示以外の施設内委員会で領域専門医委員会が認定したものも含まれます。